

事業所名

どんぐり

支援プログラム

作成日：令和7年3月1日

| | | | | | |
|-----------|-------------|---|---------|--|----|
| 法人（事業所）理念 | | ・個人が人として尊厳を持ち、家庭や地域の中で、障がいの有無や年齢にかかわらず、その人らしい安心のある生活が送れるように支援していきます | | | |
| 支援方針 | | ・一人一人の性格や成長のペースに合わせて、応用行動分析の理論や技術等を使用してお子さまの成長を促すためのより良い支援をしていきます | | | |
| 営業時間 | | 8 時 30 分から 17 時 30 分まで | 送迎実施の有無 | あり | なし |
| 支 援 内 容 | | | | | |
| 本人支援 | 健康・生活 | <ul style="list-style-type: none"> ご家庭以外の場所でのお昼寝が難しいお子さまは、個別での対応を行い、スモールステップで集団の中でもお昼寝ができるように支援しています 歯磨き、手洗い、食事等、生活に必要なスキルの獲得を支援しています ※視覚的な支援を用いて | | | |
| | 運動・感覚 | <ul style="list-style-type: none"> 個別療育の自立課題では微細運動を取り入れた課題を実施しています 年齢に応じて、スプーン・箸・はさみ・えんぴつ等の持ち方や使い方を支援しています 自由遊びの空間にはサーキットやトランポリンを設置しています | | | |
| | 認知・行動 | <ul style="list-style-type: none"> スケジュールシステムを取り入れ、何を求められているかを視覚的に認知し自立して行動できるよう支援しています 個別療育では学習しやすい環境（認知に向上）を整えるため、パーテーションで個別エリアを作ったり、ワークシステムで始まりから終わりまでが分かり易い工夫をしています | | | |
| | 言語コミュニケーション | <ul style="list-style-type: none"> 要求や援助要請を表出できるように言語・非言語コミュニケーションの支援をしています 言語がないお子さまや言葉を出すのが苦手なお子さまにはカード等を使用した非言語コミュニケーションツールを使用した支援を行っています 月に1回、言語聴覚士の先生にスーパーバイズを行って頂き、口のメカニズムや発達段階からの視点等も踏まえた発語の練習を行っています | | | |
| | 人間関係社会性 | <ul style="list-style-type: none"> 友達との関わり方・距離感等をどんぐりの生活の中で培えるよう支援しています 集団療育の時間に順番があることの理解・待てる力を養う等の社会性を学習する機会を設けています SSTを使用して場面でのふさわしい行動を学習しています | | | |
| 家族支援 | | <ul style="list-style-type: none"> 家庭での困り事や悩み事に対して、一緒に考えどんぐり内で取り組める事家庭で取り組める事等、解決方法を提案しています どんぐりでできるようになった事を家庭でも般化できるように、教材を作成したりしています | 移行支援 | <ul style="list-style-type: none"> 進学や保育園や幼稚園等との併用利用を行う際は、保護者の方に了承を得て、どんぐりでのアセスメントや有効的な支援方法等の情報共有を行います 身にまわりの事で自分でできること。自分で言えることを練習し、移行先での般化をねらっています | |
| 地域支援・地域連携 | | <ul style="list-style-type: none"> 保育園や幼稚園と併用利用されているお子さんも多くいらっしゃるので、他機関との連絡を図っています 地域の読み聞かせのボランティアの方に月に1度読み聞かせを行ってもらっています 地域のお祭りに参加させてもらったり、地域の公園を利用させてもらう等知ってもらう事を心がけています | 職員の質の向上 | <ul style="list-style-type: none"> 内部、外部研修の実施 行動分析学の先生からの助言・指導：週に1回 言語聴覚士の先生からの助言・指導：月に1回 学会発表による自己研鑽：年に1回程度 | |
| 主な行事等 | | ・花見 ・避難訓練 ・季節の制作 ・プール | | | |